

皮膚科領域における Enduracidin の使用成績

武田 敏 夫 早 川 実

京都大学医学部皮膚科教室

(主任 太藤重夫教授)

緒 言

Enduracidin は *Streptomyces fungicidicus* No. B 5477 から分離された polypeptide 系の新抗生物質である。本剤は特にグラム陽性菌に強い抗菌力を示すといわれる。われわれはこの薬剤の注射剤ならびに軟膏を使用する機会を得たので臨床成績と患者より得た教室保存のブ菌の感受性の成績について述べる。

使 用 薬 剤

a) 注射 1日1回 50 mg, 1回 100 mg あるいは1日2回 50 mg ずつ筋肉注射使用した。

b) 軟膏 0.5% 白色ワセリン基剤軟膏と0.5% ポリエチレングリコール基剤軟膏を1日 1~3 回塗布使用した。

感 受 性 成 績

患者より採取した教室保存のブ菌30株の Enduracidin の感受性を稀釈法によつて測定した。培地は heart infusion agar (Eiken) と武田薬品から指定された

表1 ブ菌 30 株の最少発育阻止濃度

M.I.C.	0.25 mcg/ml	0.5 mcg/ml	合 計
Tripto-soy agar	19	11	30株
Heart infusion agar	29	1	30株

tripto-soy agar (Eiken) の両者を用いた。その成績を表1に示す。

Enduracidin の最少発育阻止濃度 (MIC) は, tripto-soy agar 培地では 0.5 mcg/ml 11 株, 0.25 mcg/ml 19 株, heart infusion agar 培地では 0.5 mcg/ml 1 株, 0.25 mcg/ml 29 株であつた。

臨床使用成績

a) 注射剤

瘡3例, 蜂窩織炎3例, 汗腺膿瘍1例に1日 50 mg~100 mg を1~2 回筋肉注射を行なつた。成績を表2に示す。著効はなく, 有効1例, やや有効1例, 無効5例であつた。これら7例の症例の内 やや有効1例からは *Strept. haemolyticus*, *Reitterella* が培養された。他は黄色ブ菌であつた。

b) 軟膏剤

伝染性膿痂疹8例, 細菌性湿疹, 急性レ線潰瘍, 固定疹(水疱を生じびらん化したもの), 尋常性疔贅焼灼後の火傷, ストロフルス2次感染, 火傷Ⅲ度各1例に使用した。成績を表3に示す。著効10例, やや有効2例, 無効2例であつた。基剤はポリエチレングリコールに比してワセリンのほうが優れていた。

結 語

1) 患者から分離したブ菌30株の Enduracidin の感受性を2種の培地を用いて測定した。両者いずれの培地においても MIC は 0.25 mcg/ml から 0.5 mcg/ml に

表2 注射臨床使用成績

No.	氏 名	年令	性	病 名	部 位	使用量	期 間	効 果	副作用
1		63	♂	蜂 窩 織 炎	項	50 mg	14日	無 効	なし
2		39	♂	〃	左前胸部	100 mg	4日	無 効	なし
3		68	♂	〃	左足背	100 mg	4日	やや有効	なし
4		20	♀	瘡	左下眼瞼	100 mg	4日	有 効	なし
5		67	♂	〃	左上腕	50 mg	8日	無 効	なし
6		36	♀	〃	背部	100 mg	20日	無 効	なし
7		24	♂	汗腺膿瘍	左腋窩	50 mg	7日	無 効	なし

表3 軟膏臨床使用成績

No.	氏名	年齢	性	病名	基剤	塗布回数/日	期間	塗布部の所見	効果	副作用
1		4	♀	伝染性膿痂疹	ワセリン	1回	2	痂皮, びらん	無効	なし
2		8	♀	〃	〃	1回	7	〃	著効	〃
3		5	♂	〃	〃	1回	7	〃	〃	〃
4		2	♂	〃	〃	1回	7	〃	〃	〃
5		2	♀	〃	〃	1回	9	〃	〃	〃
6		4	♂	〃	〃	2回	5	〃	やや有効	〃
7		6	♂	〃	〃	2~3回	3	〃	やや有効	〃
8		2	♂	〃	〃	2~3回	3	〃	著効	〃
9		34	♂	細菌性湿疹	PEG	3回	7	びらん化	著効	〃
10		8	♂	尋常性疣贅焼灼後の火傷	PEG	2回	16	一部周囲に発赤腫脹, 膿をみる	著効	〃
11		18	♂	急性レ線潰瘍	ワセリン	1回	20	膿基を被つた潰瘍あり	〃	〃
12		23	♂	ピリン疹	〃	1回	4	びらん	〃	〃
13		2	♂	ストロフルスーンズ感染	〃	2回	3	痂皮びらん	〃	〃
14		14	♀	火傷Ⅲ度	〃	1回	4	潰瘍びらん	無効	〃

あつた。

た効果を認めなかつたが、軟膏では優れた成績を示し

2) 膿皮症に注射剤と軟膏剤を使用した。注射は優れ

た。

APPLICATION OF ENDURACIDIN IN THE FIELD OF DERMATOLOGY

TOSHIO TAKEDA & MINORU HAYAKAWA

Dept. of Dermatology, Faculty of Medicine, Kyoto University

(Director: SHIGEO OFUJI)

Enduracidin (EDC), a new polypeptide antibiotic, isolated from *Streptomyces fungicidicus* No. B5477, was tried in various pyodermic conditions such as furuncle, phlegmone, and infectious impetigo and the following results were obtained. EDC injection was used in 7 cases and was effective in 1, somewhat effective in 1 and ineffective in 5 cases. EDC ointment was used in 14 cases and was very effective in 10, somewhat effective in 2 and ineffective in 2 cases.

EDC was tested bacteriologically by examining the sensitivity of 30 strains of Staphylococci maintained in the laboratory. The heart infusion agar and trypto-soy agar were used for the medium and the stepwise dilution method was used for the determinations. The minimal growth suppressing concentration of EDC was 0.5 mcg/ml in 11 strains and 0.25 mcg/ml in 19 strains in the trypto-soy agar medium and 0.5 mcg/ml in 1 strain and 0.25 mcg/ml in 24 strains in the heart infusion agar medium.